

平成 19 年 2 月 19 日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業助成 事業報告書

1 申請団体・グループ名

NPO 法人 天王寺 21 協議会

共同事業者名（いる場合のみ記入してください）

大阪を描こう会

2 事業のテーマ・タイトル

第 11 回 大阪を描こう展（上町台地をテーマに・・・）

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
8 月	●8 月下旬 募集要項をポスター 200 枚 リーフレット 4000 枚を制作 (5・6 月、共催・後援など各方面に申済、展覧会期が新年早々となる)
9 月	●前回入選者に案内、近鉄ターミナル、コミュニティ協会、区役所、画材店、ギャラリーなどに配布、設置。
10 月	●10 月 7 日 上町台地(夕陽ヶ丘を中心に)で写生会を実施 60 余名が参加。
11 月	●特筆事項なし。
12 月	● 12 月 2・3 日 作品搬入受け付け、280 点余が持込まれた ● 12 月 5 日 審査会 常任委員 8 名による審査で入選、入賞を含 188 点を選出。 ●12 月 10 日 ポスター型、卓上型カレンダー（毎年投票上位の作品 12 点を掲載）を配布 ●入選以上の 188 点を掲載した作品集を 500 部 (A4 判 80p) 制作。
1 月	●1 月 3 日 17:00 時より展覧会場、近鉄百貨店・上本町店へ作品搬入 ● 4 日 9:00 出品者による内見会、10:00 よりオープン。読売・産経の 2 紙に掲載される。 ● 10 日 最終日、会期中の入場者は 6,500 名に達した。 ● 20・21 日 作品搬出日、作者に作品返却。 ● 27 日 入賞者授賞式、懇親会を上六・彩園で実施、68 名参加。
2 月	●委員会実施予定。

※ 実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効果	<p>第11回展はこれまでの大阪天王寺ライオンズクラブ主催からNPO法人天王寺21協議会に移管され、それに伴って2006年3月にこれまでの出品者から会員認定を受けた100名により「大阪を描こう会」が設立され実質活動に入りました。</p> <p>5月には「秀作展」を開催、07年1月の本展に向けて4度の委員会を重ね、これまでの「大阪を描こう・・・」をベースにこの11回展は原点に帰って、テーマを「上町台地を描こう・・・」と絞り9月より一般公募がスタート。(因に十年余り前の第1回は上町台地を描こうでした。)</p> <p>今回も6,500名に達する入場者を数え、この催事に対する出品者、鑑賞者の関心の高さを表していると思います。とくに出品絵画の質の高さは斯界の方々が認めるところで、殆どが分りやすい具象画だけに、今回のテーマが上町台地とあって、描く人 観る人共に、上町台地の再発見にいささかでも寄与できたものと考えます。</p>
今後の展望	<p>大阪を描こう会の結成とともに、第12回を目指すことは決定事項ですが、反省点として今回は「上町台地をテーマに・・・」としましたが、例年のテーマが「大阪を描こう」とある為にすでに制作に入っている人も多く、モチーフの範囲が少し曖昧になりました。しかしこの絵画展の意義は大きく、大阪全域から隣接県在住の方まで応募者が拡がり、高齢化社会が進む中で、絵筆を持つ人、鑑賞する人が増え、テーマのある公募展として街おこしの一端を担えればと、より推進して参ります。</p>

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

平成 19 年 3 月 2 日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業助成 事業報告書

1 申請団体・グループ名

北大江地区まちづくり実行委員会

共同事業者名（いる場合のみ記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

春夏秋冬、都心を楽しむ北大江

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
8月	
9月	
10月	北大江公園たそがれコンサート
11月	春夏秋冬、都心を楽しむ北大江学習会(第1回、第2回)
12月	春夏秋冬、都心を楽しむ北大江学習会(第3回)
1月	あったか北大江まち祭り
2月	(北大江ガイドマップ作成中)

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	各事業の実施により、季節ごとの都心の楽しみ方のメニューを増やし、まちが持っているポテンシャルを、さまざまな人に伝えることができた。特に「たそがれコンサート」では、住む、働く、学ぶ、訪れる人、老若男女が秋の夕暮れの公園を楽しんだ。
今後の展望	住む、働く、学ぶ、訪れる、老若男女など様々な人々が、春夏秋冬、平日休日、朝昼晩など様々な時間に、台地、坂、水辺など様々な場所で、都心の楽しみを発見できるよう、様々なジャンルで都心の楽しみを増やす工夫を進める。現在進んでいる中之島新線の整備や、八軒家船着場の再現整備などによる楽しみづくりとうまくつながる活動を展開していく。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

平成 19 年 3 月 1 日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業助成 事業報告書

1 申請団体・グループ名

てんのうじ観光ボランティアガイド協議会

共同事業者名（いる場合のみ記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

てんのうじ観光歴史検定及び観光ガイド養成資料の作成

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
8月	役員で観光歴史検定問題の集約と内容検討及び観光ガイド養成資料の内容検討
9月	
10月	観光歴史検定問題集の内容および観光ガイド養成資料の内容について、会員に提示し、内容の検討
11月	検定問題の一部を「てんのうじ花と緑と環境フェスティバル」のブースで利用し、観光ボランティアガイドの紹介をした
12月	会員の意見を反映し、役員で観光歴史検定問題集と観光ガイド養成資料について内容を精査
1月	観光歴史検定問題集、観光ガイド養成資料の冊子の形態等検討、印刷発注 観光歴史検定問題集の発行について新聞取材を受ける
2月	観光歴史検定問題集、観光ガイド養成資料の印刷・校正 両冊子の完成

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	観光ガイド養成資料並びに観光歴史検定問題集を作成することで、天王寺の歴史・文化の理解を深めることができた。
今後の展望	各種イベントの機会や一般の情報紙、区の広報紙等の協力を得ながら観光歴史検定問題集を利用して天王寺の歴史文化を発信していく。 観光ガイド養成資料を利用し新任ガイドを養成し、ガイドを増やして天王寺区の魅力を発信していく。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

平成 19 年 3 月 5 日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業助成 事業報告書

1 申請団体・グループ名

WCS プロジェクト

共同事業者名（いる場合のみ記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

「デッカ&マッカ」のこどもぬりえ大会

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
8月	
9月	ぬりえ6種類の制作 ご協力していただける幼稚園のリストアップ
10月	15日「中央区民祭り」にてぬりえを実施 参加者50名程度 回収枚数50枚 28日～29日「からほりまちアート」にてぬりえを実施 参加者20名程度 回収枚数13枚
11月	初旬～下旬にかけて 協力していただいた幼稚園へのぬりえの配布およびぬりえの実施 ■中央区、中央なにわ幼稚園・東平幼稚園・中大江幼稚園 ■天王寺区、パドマ幼稚園・大江幼稚園・真田山幼稚園
12月	2～3日 應典院にてぬりえ484点の展示
1月	サイト制作
2月	1日「デッカ&マッカ」のこどもぬりえ大会結果のサイト公開 幼稚園へのぬりえの返却および感謝状の贈呈、アンケートの配布

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	484人ものみなさんにぬりえに参加いただき幼稚園児と共に親世代の方々にも地域に対する興味をもっていただくことができた。 ある幼稚園では園長先生から今後も地域ぐるみでのイベントへ参加していきたいと要望があった。
今後の展望	今年の4月には、春のイベントとして「上町台地の小さな魅力発見!デッカ&マッカ手作りポストカード作品展」を開催。今後も幅広い世代に向け、春と秋には定期的に「デッカ&マッカ」とともに、上町台地の魅力を伝える取組みを実施していきます。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

平成 19 年 3 月 3 日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業助成 事業報告書

1 申請団体・グループ名

なにわ人形芝居フェスティバル運営委員会

共同事業者名（いる場合のみ記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

第11回なにわ人形芝居フェスティバル ～逢坂・花参り～

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
8月	企画会議
9月	企画会議
10月	企画会議
11月	企画会議、花嫁行列参加カップル決定、参加人形劇団選定
12月	企画会議、参加アニメーション作品選定、その他参加団体選定、
1月	スペシャル企画内容詳細決定、参加者選定、その他企画詳細決定
2月	第1版ちらし、ポスター配布、関係団体共催イベント詳細決定

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	第11回を迎え、「なにわ人形芝居フェスティバル」の内容をより充実させることで、今後も継続を望める逢坂界隈の4月第1日曜のイベントとして地域に定着させる。
今後の展望	上町台地一帯の関係団体との同日共催イベントにより、上町台地で活動する諸団体との緩やかな繋がりを形成し、「上町台地」を意識した上町台地のイベントの顔としても定着させていく。そして、団体のメンバーだけではなく、上町台地で働き、暮らすより多くの人に参加してもらうことで、地域の一体感を形成する一助となるイベントにしていきたい。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

平成 19 年 3 月 5 日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業助成 事業報告書

1 申請団体・グループ名

直木三十五記念館

共同事業者名(いる場合のみ記入してください)

2 事業のテーマ・タイトル

直木三十五全集未収録文献、書簡に関する研究調査等

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
8月	全集未収力文献等の調査の実施。小酒井不木宛の書簡の発見。
9月	関係団体への調査と周辺取材の実施。
10月	書簡購入のための自己資金の調達の実施。
11月	〃
12月	調査研究内容のまとめ作業
1月	成果発表会の実施。書簡の購入
2月	会報の編集

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	多くの未収録資料の存在と今後の記念館の収蔵資料の収集方針が明確になった。
今後の展望	今回の調査研究の対象となった小酒井不木宛ての書簡については四月を目処に記念館での常設展示による一般公開を予定している。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

平成 19 年 3 月 5 日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業助成 事業報告書

1 申請団体・グループ名

からほり倶楽部

共同事業者名（いる場合のみ記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

上町台地・まちの学校～まちに気づく、まちから気づく

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
8月	
9月	4日(月) 企画検討会議 企画内容の最終確認・決定、チラシ印刷手配、PR 方法確認など 中旬 チラシ印刷上がり、チラシ配布、ホームページ開設
10月	2日(月) 企画検討会議 各企画の準備状況・参加申込状況など確認、チラシ印刷手配、PR 方法確認など 6日(金) 朝日新聞夕刊大阪版に一連の事業が紹介される 8日(日) 『惣堀ツーリズム～空堀跡を歩き、いにしえのときを知る』 概要＝豊臣大坂城時代の南惣構堀(空堀)の推定地や大坂冬の陣の折りに空堀の外側に築かれた真田山の推定地などを歩きながら、400年余のまちの歴史を振り返りました。また、複合商業施設「結」では合戦時に食されたおにぎりを再現した昼食を摂るとともに、大阪城天守閣研究副主幹の北川央先生によるミニ講演、長屋再生複合商業施設「惣」南隣に当日オープンしたばかりの「惣・新館」では空堀の堀端に築かれたとされる「木柵」の再現展示を見学しました。 コース＝JR 玉造駅⇒三光神社⇒宰相山公園⇒複合商業施設「結」⇒空清町⇒空堀商店街⇒直木三十五記念館⇒複合商業施設「惣・新館」 15日(日) 『平成 18 年度中央区民まつり～空堀ブース』 概要＝毎秋行われる中央区民まつりに「空堀ブース」を出展し、空堀界隈の歴史や街並みなどの紹介や、長屋再生などの事業PRを行うとともに、区民まつりに参加した区内の多彩な市民団体などとの出会いと

	<p>交流の機会を持った。</p> <p>21日(土) 『城塞を大河ドラマにする会!』 概要＝数々の歴史小説のみならず、日本社会や日本人のあり方を鋭く問いかける随筆も数多く遺された司馬遼太郎氏の長編小説「城塞」にスポットを当て、その大河ドラマ化や配役などを楽しく夢想しながら、上町台地で繰り広げられた大坂冬・夏の陣を取り巻く人間模様に迫った。</p> <p>29日(日) 『上町台地ヒーリング・スタイル～和と食と笑いの午後』 概要＝なにわのまちで育まれた豊かな食文化。なかでも復活著しい「なにわ伝統野菜」と大阪湾の活け魚など地元食材をふんだんに使った浪速魚菜弁当。庶民の暮らしを彩った上方芸能「落語」。数ある咄のなかでも特に空堀界隈の長屋暮らしがベースになった「らくだ」。なにわの食と笑いを上町台地に再生された近代大阪の和の空間「練」で楽しみながら、都市空間のなかでの癒しのひとときを体感するとともに、近世・近代の都心居住に思いを馳せた。</p>
11月	<p>6日(月) 事業反省会 参加者数報告、参加者の声など事業評価</p>
12月	<p>4日(月) 事業反省会 事業精算中間報告、今後の展開の検討</p> <p>6日(水) マイルドHOPEゾーン協議会中間報告会</p>
1月	<p>18日(木) 事業反省会 事業最終精算報告、今後の展開の検討</p>
2月	<p>報告書作成</p>

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効果	<p>『惣堀ツーリズム～空堀跡を歩き、いにしえのときを知る』</p> <p>成果①これまで空堀との縁が意外と少なかった「歴史ファン」の取り込みが出来た。</p> <p>②「空堀」という地名の由来である南惣構堀について実感する機会はこれまでほとんどなかったが、今回試行することが出来た。</p> <p>③歩きながらの専門家による解説や古地図との見比べなどにより、地形や風景の変遷を感じ取ることが出来た。</p> <p>④普段は訪れにくい「心願寺」や「円珠庵」なども出入りすることが出来、「空堀つながり」の横軸が形成できた。</p>
	<p>『平成 18 年度中央区民まつり～空堀ブース』</p> <p>成果①空堀界隈の様子や長屋再生などの事業について、区民に広報 PR する機会が持てた。</p> <p>②ブースを訪れる区民や区内の市民団体など他のブース関係者の声を直接聞くことで、空堀のイメージや事業の認知度などを実感することが出来た。</p>
	<p>『城塞を大河ドラマにする会！』</p> <p>成果①テーマはかなりマニアックではあったが、これまで空堀に集う人たちとは違う集まりが持てた。</p> <p>②まちづくりからは一見縁遠い内容にも関わらず、人が交じり合い、住み合う土地で営々と続く人間模様に関心を馳せることが出来た。</p> <p>③空堀や上町台地を広くアピールしていく可能性やツールに新たな幅を持たせることが出来た。</p>
	<p>『上町台地ヒーリング・スタイル～和と食と笑いの午後』</p> <p>成果①食文化と上方芸能を空堀という空間やお屋敷再生事業「練」という場所につなげることで、予想以上の反響が得られた。</p> <p>②「なにわ伝統野菜」の復活に取り組むNPOや落語家など、これまでつながりのなかった分野の人たちとの、事業を通じたネットワーク形成が図られた。</p> <p>③「からほりまちアート」開催日に併せたことで、演芸ファンやグルメがアートやアーティストを通じてまちを感じ取ることが出来た。</p>
	<p>【事業全体を通じた成果】</p> <p>①長屋再生や街並み修景といった建築や都市計画の観点を中心に活動を展開してきたが、街並みとともに培われてきた地域の歴史や生活文化に焦点を当てる取り組みを試行することができ、また、それらを通じた関心の喚起を図る可能性が開けた。</p> <p>②企画テーマを広げたことで、建築や都市計画分野以外に歴史や文化などに関心のある人たちとの出会いとネットワークづくりが図られた。</p> <p>③1ヶ月近くわたる事業展開により、地域のアピールやイメージ浸透が図られた。</p>

<p>今後の 展 望</p>	<p>「惣堀ツーリズム」のように楽しく分かりやすい専門家の解説付きまち歩き機会への期待は高く、今後もテーマとメニューに工夫を凝らしたまち歩き機会づくりを行っていききたい。</p> <p>「上町ヒーリング・スタイル」では落語という古典芸能と古い街並み・お屋敷空間のコラボレーションが好評を博したが、落語家や講談師などの空堀界限への関心も高く、費用面の工夫を図りながら、彼らとの協働も続けていきたい。</p> <p>「城塞を大河ドラマにする会」はその後も継続開催しており、遊び心を交えながらも、まちへの新たなアプローチが切り開けつつある。</p> <p>長屋や街並みへの直接的な取り組み以外に活動の幅を広げることで、まちへより多くの関心を集める可能性が見出せた。今後も時間を掛けながら、地域内外の人たちと出会う機会、参画の窓口を多様化、拡大化していききたい。</p>
--------------------	---

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

平成 19 年 3 月 5 日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業助成 事業報告書

1 申請団体・グループ名

應典院寺町倶楽部

共同事業者名（いる場合のみ記入してください）

大蓮寺・エンディングを考える市民の会

2 事業のテーマ・タイトル

上町台地「終の棲家」検討プロジェクト

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
8月	シンポジウム開催（5日…あしたの"供養"を考える）
9月	ヒアリング（20日…大阪市立大学病院・山口悦子医師）
10月	シンポジウム開催（31日…大阪発信：お寺の「実力」）
11月	10月開催のシンポジウムの事後懇談会（19日）
12月	中間発表会で発表（6日）
1月	ヒアリング（18日…大阪市社会福祉協議会）
2月	シンポジウム「微笑みが開く[地域の看取り]」開催

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	在宅ホスピスなど納得して終末期を迎えられる「終の棲家」の実現のための着想を整理し、シンポジウムにて発表した。その間、僧侶、医師、看護、葬儀関係者、研究者及び大学院生のヒアリングをとおして論点を整理した。シンポジウムには多様な参加者が来訪し、関心層が広がった。
今後の展望	シンポジウムに来訪した多様な層を巻き込み、都心に住まうこと、また都心で生涯を終えることの意義を再認識いただいたが、利便性と効率性を鑑みれば、施設を中心とした看護・医療が選択されやすい。そうしたなかで、関係施設との連携のあり方を検討し、多くの方々にとって納得し、安心して選択できる在宅医療、自宅での看取りを展望していきたい。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。